

一般公開（オープンハウス等）情報



改修・設置した省エネ建材および設備

- 断熱材 窓 玄関ドア ガラス  
空調設備 給湯設備 換気設備

改修した住宅のアピールポイント

築53年の無断熱住宅を耐震、温熱環境ともに当社の新築標準仕様まで改修した  
換気空調もこだわった上で性能だけでなく 素材や部材にもこだわった建物となりました

省エネ性能

断熱等性能等級 <sup>※1</sup>							UA値 <sup>※2</sup>
							0.25
一次エネルギー消費量削減率 (再生可能エネルギー除く) <sup>※3</sup>	40%						
目安光熱費	—						

一般公開（オープンハウス等）実施情報

開催期間	2026年4月1日～2028年4月30日		
開催日	要相談	来場予約	必要
実施内容	見学、宿泊体験		
住宅の購入	可		
問合せ先	会社名	株式会社 勝部建築	
	電話番号またはホームページ	<a href="https://www.soumu-katsuken.com/">https://www.soumu-katsuken.com/</a>	

基本情報

地域区分	6	都道府県 市区町村	島根県出雲市
構造	木造	階数	地上1階
築年数	53年	延べ床面積	70.79㎡
同規模の改修を行う場合の工事総額の目安	(断熱・省エネ以外の金額も含む) 約 3,300 万円		
リフォーム箇所	フルリノベーション		

主な導入設備・建材（既存の設備・建材は除く）

部位	断熱材種別	施工面積	断熱材	設備	仕様	効率	区分				
								断熱材種別	設備	仕様	効率
断熱材	屋根	吹込み用グラスウール	77.63㎡	窓	樹脂製	空調設備	暖房	仕様	(主たる居室) ルームエアコンディショナー	効率	区分 (い)
					木製			仕様	(その他居室) —	効率	—
	天井	—	—	ガラス	ダブルLow-E三層 (アルゴンガス)	冷房	仕様	(主たる居室) ルームエアコンディショナー	効率	区分 (い)	
	壁	高性能グラスウール	179.94㎡					(その他居室) —	効率	—	
	床	—	—	玄関ドア	木製	給湯設備	仕様	電気ヒートポンプ給湯機	効率	年間給湯保温効率 3.5	
	基礎	押出法ポリスチレンフォーム	87.58㎡					(戸の仕様) 木質系複合断熱ドア	給湯関連設備	仕様	—
			ガラス	—	換気設備	仕様	—	効率	—		

※1 断熱等性能等級とは、住宅の断熱性能を評価する7段階の指標で、数字が大きいほど断熱性が高く、冷暖房効率の良い快適で省エネな家であることを示している。

※2 UA値とは、外皮平均熱貫流率のことで、住宅の断熱性能を表す数値である。UA値が大きいほど断熱性能が低く、UA値が小さいほど断熱性能が高くなる。

※3 一次エネルギー消費量削減率(再生可能エネルギー除く)とは、太陽光発電などの再生可能エネルギーによる発電分を除いた上で、建築物などの省エネ性能を評価する指標国の定める基準(基準一次エネルギー消費量)に対して、実際の設計(設計一次エネルギー消費量)でどれだけエネルギー消費を減らせたかを示す割合である。

## 自由記載欄

今回のモデルハウスは単に性能や数値を追いかけるための建物ではありません この地域の気候や風景そして人の営みの中で本当に長く愛される家とは何かを考え続けた一つの答えとしてつくりました

断熱・気密・耐震といった基本性能を高い水準で設計するのはもはや当たり前の事  
数値は目的ではなく、あくまで手段

性能とは「安心して暮らせる時間」をつくるための基盤であり

住まい手の人生を支える静かな技術だと考えています

出雲という地域は、冬の日照時間が短く、湿度も高く

決して住宅にとって易しい環境ではありません

だからこそ空気の動きや温度差をコントロールすることで

目に見えない快適さをつくる、設備の能力だけに頼るのではなく

建物そのものが環境に寄り添いながら働く家を創るのだと感じています

同じく大切にしたいのが「地元の素材」です

石、土、地元で生まれ育った木材、地元の職人の手仕事

性能の数字には表れにくい部分かもしれませんが、地域で採れたものを地域で使うことは

環境負荷を抑えるだけでなく、土地の記憶を家に宿すことでもあります

遠くから運ばれた材料ではなくこの場所で生まれた素材を使うことで

時間が経つほどに風景に馴染んでいく建物になるのではと

環境という言葉は難しく特別なもののように聞こえます

しかし私たちにとって環境とは、目の前の暮らしそのものではないでしょうか

温度、湿度、光、風、素材、人の手、それらがゆっくりと調和していくことが

持続可能な住まいにつながるのだと思い環境塾で学んだ知識を胸にこれからも建築を続けていきます